

## 「東久留米市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直し(補正)について(素案)」 パブリックコメント実施結果

募集期間:平成29年12月6日(水)～12月26日(火)

ご意見をいただいた人数:1人(2件)

本パブリックコメントにおいていただいたご意見について、下記のとおり市の考え方を示します。

ご意見の概要	ご意見に対する市の考え方
<p>今回の素案では乳幼児の人口推計の増加に伴う補正と確保方策とあります。人口推計がどのように役立てられるかは、子どもたちがひとくくりの数として保育されるのではなく、数字に表されるのは一人ひとりの顔でなければならぬと思います。待機児童が依然として中、人口減少と待機児童数は必ずしも比例するとは限らず、厳しい社会情勢や、女性の社会進出、孤独な子育て不安など、保育を必要とする全ての子どもたちに応えていくことが行政の役割だと思えます。</p>	<p>今回の東久留米市子ども・子育て支援事業計画(以下「事業計画」という。)の中間年の見直しは、平成29年6月の内閣府通知を踏まえて実施しました。事業計画に記載している就学前人口の推計値について、直近の就学前人口の増減の傾向を参照し、時点修正を行いました。幼児期の教育・保育の量の見込みについては、保育所等の施設整備の進捗による潜在需要の喚起及び女性就業率の上昇傾向等といった側面に留意しながら算出しました。また、同じく、確保方策については、予定している施設整備計画等に基づき、認可保育所等の定員の増員を含めて補正を行いました。平成30・31年度ともに、補正を行った各認定区分の量の見込みを上回る確保方策を設定しました。今後はこの内容に基づき、計画的な提供体制の確保を目指します。</p>
<p>待機児問題を解決していくことが最重要であることは言うまでもありませんが、公立保育園の全廃が市の計画にあることは大変大きな問題です。東久留米で子育てしようと思う人たちは不安にかられます。園庭やプール、部屋に窓もないといったところで長時間保育されている乳幼児がおり、保育の質が問題となっています。公立保育園には、地域に根ざした子育ての拠点として培われた財産があり、それを宝庫とみるか不要とみるか、東久留米をどんな町にしていきたいのかが問われていると思います。大切な東久留米の子どもたちにとって優先されなければならないのは、子どもたちの育つ環境であり、コストと天秤にかけられるものではありません。公立保育園の全廃計画こそ見直してほしいと思います。</p>	<p>「東久留米市保育サービスの施設整備・運営及び提供体制に関する実施計画」に係るご意見であり、今回のパブリックコメントの対象ではございません。</p>